

月例研修会

奥春日山原始林遊歩・レポ

小島 武雄

気温 10 度の薄曇り、朝 9 時 20 分の近鉄奈良駅「行基像前」広場への階段を上がると、既に皆さん集まっておられました。予想を超えて 20 名の参加です。市内循環バス外回りで向かいます。車内には同じ歳格好のグループと、外国人観光客がどんどん乗って来て満員に、外国人はノーマスク、「大丈夫でしょうかね?」。あの頭塔の近く「破石町(わりいし)」バス停で下車。ここから春日奥山遊歩道の登り口へ、マスクは外して気持ちよく静かな住宅街を歩いて行きます。12 月 11 日の奈良マラソン交通規制の看板を横目に、すぐ近くの茂みには若鹿の姿、おいしそうな蕎麦屋の前を通り過ぎ、いよいよ滝坂の道(旧柳生街道)に、鬱蒼とした林の中へ入ると一気に空気が冷たく変わります。苔むした古い石畳の上、側には小川のせせらぎだけ、静かです。赤茶色の落ち葉絨毯を踏みしめて、滑らない様ゆっくり進みます。手にはしっかりとストックを握り締めて、薄暗い道を進みます。



最初に現れるのは道端の寝仏、古く朽ちてよく分かりません。次の夕日観音は崖の上、よく見れば地藏菩薩(室町時代)のお姿も。ここで、落ちた鹿の角と頭蓋骨を見つけるハプニング。

朝日観音(鎌倉時代)では、やっと陽の光が差し込み、神々しく見えました。赤や黄に次々と色を変える落ち葉と石畳が途切れて首切り地藏の三叉路に、ここまで約 1 時間歩きました。身体が暖かくなり上着を脱いで、上の池に向かいます。静かな水面には紅葉と青空が映り込み、とてもきれいで見入ってしまいました。シジュウカラや、ヤマゲラの挨拶を耳にして昼食休憩

に、歩いてお腹も空いていました。

昼食後、皆さんまだまだ元気です。もう少し足を伸ばす事になり、険しい上り下り道の地獄谷石窟仏まで歩きます。石窟にはまだ朱の残る線刻仏(平安時代の作、すごい!)を拝んで、下りの急坂に足を滑らさないように声掛けしながら歩きます。しばらくして、奥山ドライブウェイの開けた所に出てきました。舗装された道には灰色の朴木落ち葉がたくさん積み重なり、その上をサクサク、ザワザワと踏みしめて歩いて行きます。

帰りは春日奥山遊歩道へ、赤い落ち葉道は、とても長い緩い下りです。もう終わりの紅葉を眺め、時折差し込む光で、さっと輝き始める景色に「うわーきれい!!」と歓声をあげながらも、しっかり歩きます。そろそろ足腰に堪えて来た頃にやっと滝坂の道登り口に到着。山坂道含め約 10 キロを皆で元気に歩きました、お疲れ様でした。落伍者無し。

案内人 福田、富井、小島



石畳の道から木橋へ

落ち葉を踏みしめて



首切り地藏前にて